

## 事業名：公共交通利用促進対策事業

政策推進課 参事（住環境活性化・公共交通）

政策	04 安全で快適な都市生活の充実								
施策	02 交通環境の充実								
基本事業	03 移動交通手段の充実								
開始年度	平成25年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	

<b>事務事業の目的と成果</b>	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
市民	
手段（事務事業の内容、やり方）	
市民、交通事業者、学識経験者、各種団体等からなる公共交通検討会議において公共交通のあり方等を検討する。	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
市民、交通事業者等と公共交通のあり方等を検討することで利便性向上や利用促進等を図る。	

<b>指標・事業費の推移</b>						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	市民	人	0	0	120,802	120,802
対象指標2						
活動指標1	会議開催回数	回	0	0	4	—
活動指標2						
成果指標1	利便性向上や利用促進等のために行った事業数	件	0	0	4	—
成果指標2						
事業費(A)		千円	0	0	2,480	3,287
正職員人件費(B)		千円	0	0	10,157	10,171
総事業費(A+B)		千円	0	0	12,637	13,458

	<b>事業内容（主なもの）</b>	<b>費用内訳（主なもの）</b>
25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通調査</li> <li>バス路線マップ作成</li> <li>検討会議開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通調査委託経費 1,995千円</li> <li>バス路線マップ作成経費 158千円</li> <li>検討会議運営経費 327千円</li> </ul>

<b>事業を取り巻く環境変化</b>	
<b>事業開始背景</b>	
バス利用者の減少等により赤字バス路線の維持確保が大きな課題となっているが、駅の高架化や周辺整備に伴い、市のまちづくりに相応しい公共交通体系のあり方を検討すべき時期に来ており、バス交通の確保を含め、より良い公共交通体系の実現に向けた取り組みについて検討が必要である。	
<b>事業を取り巻く環境変化</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス利用者の減少等により赤字バス路線の廃止、減便が続いている。</li> <li>・駅の高架化や周辺整備が進んでおり、駅周辺部の交通環境が変化しつつある。</li> </ul>	

<b>平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）</b>	
<b>(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？</b>	
<b>妥当である</b> 妥当性が低い	<b>理由根拠</b>
より良い公共交通の実現に向けて、今後の公共交通のあり方等を検討することは、市のまちづくりの観点から必要である。	
<b>(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？</b>	
<b>貢献度大きい</b> 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	<b>理由根拠</b>
交通機能の向上や利便性の確保等に向けた検討を進めることにより交通環境の充実につながる。	
<b>(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？</b>	
<b>上がっている</b> <b>どちらかといえば上がっている</b> <b>上がらない</b>	<b>理由根拠</b>
公共交通検討会議において今後の方向性等について検討が進められ、バスマップの作成等の利用促進に向けた取り組みが進められた。	
<b>(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？</b>	
<b>成果向上余地 大</b> <b>成果向上余地 中</b> <b>成果向上余地 小・なし</b>	<b>理由根拠</b>
改善に向けた取り組みを検討し、利便性向上や利用促進につなげることにより、成果が向上する余地はある。	
<b>(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありますか？</b>	
<b>ある</b> なし	<b>理由根拠</b>
事業者等との連携や補助の活用によりコスト削減の可能性はある。	